

# 工学系研究科建築学専攻所蔵 旧備品台帳 (三)

## 旧工部大学校所蔵資料

角 田 真 弓

### 一 はじめに

前稿<sup>一</sup>において建築学専攻所蔵の旧備品台帳より旧工部美術学校所蔵品に該当する項目を紹介した。本稿では旧工部大学校所蔵資料を現存遺物とともに紹介したい。工部大学校は、正式には明治四年八月より明治一〇年一月一日までは工学寮、以降明治一八年一二月までは工部大学校と名称が変更されるが、本稿では具体的な時期を指す場合はその時点での名称、総称して指す場合は工部大学校とする。なお、建築学専攻へと引き継がれた経緯、旧備品台帳の説明に関しては、前稿を参照されたい。

### 二 工学寮・工部大学校校舎

はじめに、簡単に工部大学校建築の建設経緯を整理したい。明治初期の代表的な洋風建築でもある工部大学校の建築に関しては、大熊喜邦<sup>二</sup>氏、塚本靖<sup>三</sup>氏、関野克<sup>四</sup>氏による考察が行われたのみにとどまり、ほかには主に講堂を中心とした考察<sup>五</sup>や、数点の写真と図

面が紹介されているのみである<sup>六</sup>。筆者は拙稿<sup>七</sup>において、工部大学校校舎の建設経緯を大きく三期にわけ分析を行った。これをもとに簡単に紹介する。

第一期 小学校・生徒館建設期（明治四年八月～七年九月）

工学寮設置当初の計画では、基礎教育を行う小学校を明治五年七月に、専門教育・実習を行う大学校を明治七年七月に開校する計画であった。そのため、最初に建設されたのは小学校であり、また通学ではなく寄宿制を採用するため、寄宿舎であった生徒館が次に建設される。この他にも機器制作実習のための作工場、教師の住宅である教師館<sup>九</sup>等が建設された。いわば草創期であり、必要に応じ校舎を整備していったと考えること

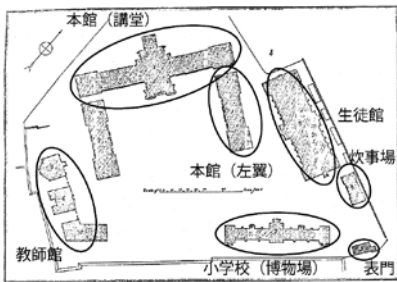


図1 工部大学校配置図  
(Calendar に筆者加筆)

ができる。

第二期 本館建設期（明治七年一〇月～一〇年九月）

工部大学の代表的建築である本館建設の時期を指す。当初案では左翼同様右翼も建設される予定であったが、中止となった。この時期になると第一期では見られない敷地内での配置構成が見られるようになる。

第三期 維持修理期（明治一〇年一〇月～一八年）

既に主要建築は建設済みであり、全体整備と修理維持が中心となる。建設されたのは表門の番所、南門・門衛室等であった。

### 三 工部大学校博物館

次に博物館はどこに位置し、収藏品がどのような物品であったのか、具体的に検討してゆきたい。なお、工部大学の書房、蔵書に関しては、滝沢正順氏の詳細な研究<sup>二</sup>があり、特に建築学の分野では池上重康氏により、より具体的な蔵書の検討がなされている<sup>三</sup>。両者の研究は本稿を進めるにあたり参考とした。

#### （一）博物館建築

先に述べたとおり、当初の工学寮の建設計画では、「工学校ヲ興シ之ヲ大学小学ノ二校二分チ」と大学校と小学校を設ける予定であったが、小学校開校は外国人教師の人選が間に合わず延期となった。その結果、当初小学校校舎として建設された建築は、明治六年の工学寮開校時には、はじめに設置された大学校予科生徒の教室に代用される。その後、小学校も明治七年に開校するが、明治



図2 博物館（時計塔撤去後）工学系研究科建築学専攻所蔵

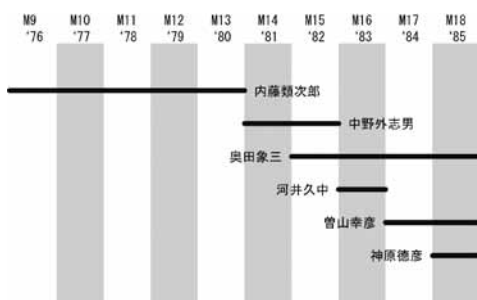


図3 博物館専任者（Calendarをもとに筆者作成）

一〇年には経費削減のため廃校となる。その頃には、既に本館校舎はほぼ竣工をしており<sup>四</sup>、小学校廃校後の校舎は、博物館へと用途を変えることとなる。このように、小学校校舎が博物館となるのは小学校廃校後の明治一〇年のことであるが、博物館（Technical Museum）は工学寮開学当初より設置されていた。明治六年版のカレンダー<sup>五</sup>によると、恐らくは小学校校舎の一室を充てていたのであろう。

また既に滝沢氏も指摘をしているが、明治五年の「工学寮職制及事務章程」<sup>六</sup>では博物館内の収藏品も図書課の管理であり、博物館の専任者はおらず、初めて専任者（Museum Keeper）として記されたのは、明治九年の内藤類次郎であった<sup>七</sup>。徳島出身の内藤は明治三年にはイギリスへ軍事知識習得のため公費留学をしており<sup>八</sup>、

明治八年には Gureni 著「Practical geometry」翻訳するな<sup>一八</sup>、  
語学が堪能であり、かつ工学知識を持っていた内藤は適任者であっ  
たのだろう。工部大学校を離れた内藤の名前を見かけるのは、外務  
省官僚としてである。明治一四年には内藤に変わり中野外志男<sup>一九</sup>が、  
その後は奥田象三<sup>二〇</sup>、河合久中、曾山幸彦<sup>二一</sup>、神原徳彦が博物場の  
担当を勤めている。

## (二) 収藏品

従来より、工部大学校旧藏品に関しては部分的に紹介がなされて  
いるが、群としては明らかとなっておらず、具体的な収藏品の検討  
はほとんど行われてこなかった。そこで、まず博物場の収藏品に関  
する記録を時代順に整理をしてゆきたい。

・明治六年『IMPERIAL COLLEGE OF ENGINEERING, TOKYO  
CALENDAR 1873』<sup>二二</sup>

・明治七年『工学寮学課並諸規則』<sup>二三</sup>

この説明によると、図面からは得ることができない知識を得るた  
め、学科ごとに参考品がそれぞれ展示されるほか、寮内製造品が同  
様に展示されていることが解る。

・明治七年都検ヘンリー・ダイアー (Henry Dyer) からの学校  
用品購入依頼<sup>二四</sup>

・明治八年の購入記録<sup>二五</sup>

以上より、主にイギリスから輸入されていることが明らかとなる  
が、箱単位、郡単位での記載であるため、具体的な種類、個数は解  
らない。

・明治一〇年のヘンリー・ダイアーによるレポート<sup>二六</sup>

このレポートは当時工部卿であった伊藤博文宛に都検ダイアーよ  
り出された明治六年から一〇年までの、いわば工部大学校の公式報  
告書である。このレポートによると、収藏品には各学科の輸入参考  
品と工部大学校での製造品があることが解る。しかしダイアーは、  
大学校での製造品に対し、輸入品は粗悪なものもあり教育上役に立  
たず、かつ高額であるとし、学内で製作のできない製品のみ輸入す  
るつもりだと述べている。また、教育上実際の製品に触れることの  
重要性を説き、このレポートともに目録を提出しているが、収藏品  
は今後も増加するであろうとしている。レポートに書かれた仕事を  
指導した当時機械学担当助手の George Cawley と博物場担当の内  
藤類次郎に対する称賛からも、実習や模型など、実際の機器や現場  
に触れることを教育上重要視する、ダイアーが理想とする工学教育  
を窺い知ることができる。

ここで、三種類の目録を紹介したい。

・『Preliminary catalogue of the minerals, rocks, fossils, shells  
and casts, contained in the Geological Museum of the Imperial  
College of Engineering』一八七七年発行<sup>二七</sup>

・『Catalogue of the minerals, rocks, fossils, shells and casts  
: contained in the Geological Department of the Imperial  
College of Engineering』一八八〇年発行<sup>二八</sup>

・『工部大学校博物処 日本物産及器械類目録 (Catalogue of  
Museum to illustrate Japanese products and manufactures)』<sup>二九</sup>

(以下、「博物館目録」と称す)

この三冊の目録は、現時点で確認されている工部大学校博物館所蔵品の目録であるにもかかわらず、内容の検討は充分に行われていない。前二冊は鉱物目録であることが表題から容易に想像でき、本稿では『博物館目録』を紹介したい。この『博物館目録』は同一内容の英文目録と和文目録が併記されたものであり、発行年は不明であるが、表紙には「明治十一年五月二十九日 工部大学校ヨリ寄贈」と記された紙片が貼付されていることから、明治十一年五月以前の発行であると考えられる。この目録に記載されている項目をみると、表題どおり日本で生産されたものが大半を占め、先に挙げた生徒の試作品、輸入品ともに該当をしない。そこでいくつかの資料から、なぜ日本の製造が存在するのか解明してゆきたい。

「工部省考課状」(明治八年自一月至六月)には、「一、今般国産其外諸製造物等現地取調トシテ御雇英人ヘンリー、ダイエル并一等中師鈴木良輔ヲ神戸、大阪、京都辺経歴、夫ヨリ帰路中仙道通リ上州地方巡回為致度旨四月十二日相伺候処、同十五日許可アリ兩名乃チ四月二十一日発足前頭ノ地方巡回産物取調済ノ末五月十五日帰京ス」とあり、ダイアーは英国からの輸入製品とともに日本の製造品に強い関心を持っていたことが解る。さらに『工学寮学課並諸規則』(明治九年)には博物館の各学科所蔵品記載の後に「但シ校中各課ニ要スル各般ノ摸形ヲ収集シテ略ホ備レリ、故ニ今年ヲ出スシテ其目録ヲ刊行スヘシ」と、『工学寮学課並諸規則』(明治一〇年)には博物館の説明の一つに「一本邦製造物 場中別ニ二室ヲ設ケ本邦ノ

製造物ヲ陳列シテ博覧ニ供フ、但シ場中陳列品ノ目録ハ既ニ刊行セリ就テ見ルヘシ」と説明されており、博物館に展示をしていたことが解る。このことから、この『博物館目録』は明治九年から一〇年にかけて作成された目録であると考えることができ、さらには、先に挙げた明治一〇年に書かれたダイアーのレポートに添えられた目録もこの『博物館目録』である可能性が高い。

#### 四 目録の紹介

本稿では、『旧備品台帳』より『博物館目録』に記載されている項目と一致する項目を紹介したい。『旧備品台帳』の項目には先に挙げた『博物館目録』と共通する項目が、「チ」印「石工器具標本」、「リ」印「西洋木匠器具標本」、「ヌ」印「木匠器具標本」、「ル」印「鋸匠器具標本」、「ヲ」印「泥工器具標本」、「ワ」印「屋匠器具標本」、「カ」印「戸匠器具標本」、「レ」印「園丁器具標本」、「ラ」印「彫木匠器具標本」の九項目存在する。この他にも『博物館目録』とは項目名は異なるが「ヨ」印「蓆工器具標本」、「タ」印「彫刻器具標本」、「ソ」印「鋏標本」、「ツ」印「釘標本」、「ネ」印「針金標本」、「ナ」印「金銀匠器具標本」、「ム」印「彫字匠器具標本」の七項目もあり、前者同様の備品群と考えられる。さらに、近年専攻内より約三百点の大工道具が発見され、整理作業および調査の結果、これらの大半が『旧備品台帳』に記載されている大工道具であることが判明した。本稿ですべてを紹介することは不可能であるため、ここではいくつかの項目を実物の大工道具とともに紹介したい。

「工部大学校博物館 日本物産及器械類目録」

「明治十一年五月二十九日工部大学校より寄贈」

付箋付

○紙之部

製紙図絵 額面 十一枚  
 製紙物料  
 製紙器具  
 絞(シボリ) 紙製造器具  
 紙類 三百六十種  
 東京製壁紙(カラカミ) 二十七種  
 西洋壁紙 八百八十六種  
 日本製ノモノニ比較スル為メ茲ニ出ス  
 絞紙(タカガミ) 三十七種  
 革擬(マガ)ヒ紙 六十三種  
 扇紙 六十種

○蠶糸(キヌ)之部

養蚕製糸図絵 額面 十五枚  
 養蚕製糸器具雛形  
 絹糸 繭共 十二種  
 蚕綿(マワタ) 二十種  
 絹布見本 二冊  
 花機(アヤオリハタ) 雛形 一個  
 綾地錦見本 上ノ雛形ニテ織リタルモノ  
 組紐(イトウチ) 器械 三個

○草綿之部

草綿培養及紡織等図絵 額面 十枚  
 紡織器具之類雛形  
 草綿(モメンワタ) 見本 三十七種  
 綿布見本

○油之部

製油図絵 額面 四枚  
 製油器具雛形  
 油見本 十九種  
 製油物料 十四種  
 油槽(カス) 十種

○茶之部

製茶図絵 額面 一枚  
 製茶 二十六種  
 茶碾(ウス) 二個  
 ○雜之部 九十四種

木材 四種  
 支那産木材 十五種  
 暹羅(シヤムロ)産木材 六十一種  
 建築用石 十四種  
 苧麻(アサ)類 十一種  
 革類 二種  
 砂糖 二種  
 食塩(シホ) 八十五種  
 穀物及種子(タネ)類

西洋木匠器具

日本木匠器具ニ比較スル為メ茲ニ出ス  
 戸匠(タテグシ)器具  
 屋匠(ヤネヤ)器具  
 泥工(サクワン)器具  
 髹師器具  
 彫木匠器具

船匠器具

鍛冶器具  
 銃匠器具  
 鉦匠器具  
 諸種鉦見本 三十本  
 金銀匠見本  
 彫金匠見本  
 彫刻見本 鍍金額面  
 鍍匠見本

製作ノ順序ヲ示ス為メ十二段ニ分ツ

石工器具  
 眼鏡匠器具  
 玉工器具  
 水晶珠(タマ) 十二個  
 琢磨ノ順序ヲ示ス  
 桶工器具  
 園丁(ニワツクリ)器具  
 筆匠器具  
 簾工器具 簾細工見本共  
 火寸(ツケギ)師器具  
 草履匠器具  
 木履(ゲク)匠器具  
 刻字匠(ハンギシ)器具  
 刻板(ハンギ)見本  
 提灯匠器具  
 傘工器具  
 髓甲細工師器具  
 麦稈(ムギワラ)細工師器具  
 麦稈細工見本  
 柳行李(ヤナギコリ)師器具

鑪車(ロクロ)雛形 一個  
 踏鑪車(フミロクロ)雛形 一個  
 鉄瓶ノ型 型ヲ作ル器具共 三個  
 鉄瓶 三個  
 溶鉄炉雛形 一個  
 打繩(ツナヅクリ)器械雛形 一個  
 踏車確(フミクルマウス)雛形 一個  
 槽確(ソウツ)雛形 一個  
 水車雛形 確二十個、磨礪三個、自動篩並穀物ヲ礙内ニ送ル装置共附屬 一個  
 大船雛形 一個  
 小舟雛形 一個  
 齊狼(セイロン)舟雛形 四個  
 造家図絵 額面 一枚  
 籐ニテ作りタル懸橋(ツリバシ)写真 東印度 一面  
 芝増上寺山門雛形  
 一閑張黒塗茶筒  
 骨細工及鯨骨(クジラ)細工見本  
 湯本細工見本  
 陶器彩色釉薬(サイシキクスリ)見本 石川與製  
 画筆画刷手顔料(エバケエノグ)等  
 自鳴鐘(リンドクイ) 一個  
 尺時計 一個

## (一) 石工器具標本

「チ」印「石工器具標本」と分類され、明治三二年四月一日付で二、三件、明治三十七年九月二十七日付で四件登録されている。このうち四件が、「明治三十七年六月三日造船学教室焼失の際、焼失」したとされる。現在の工学部六号館の敷地に位置した造船学教室と土木工学教室の二棟が焼失した際、教室備え付けの器具、機械、図書、標本等も大半が焼失したという<sup>36)</sup>。当時建築学科が位置した工科大学本館（現工学部一号館の敷地）に類焼した記録はなく、これらの焼失した備品は、正式な移管ではなく一時的に造船学科へと貸し出されていたのであろう。明治三十七年に納められた四件は、これら焼失備品の代わりとして、九月に登録されたと考えられる。

## (二) 西洋木匠器具標本

「リ」印「西洋木匠器具標本」と分類され、明治三二年四月一日付で三、二八件登録されており、件数は『旧備品台帳』に記されている大工道具の中で一番多く、内容は鋸、錐、鉋、鉋、定規、鑿など多種にわたる。扭廻、扭錐と現在は通常使われていない名称であるが、螺旋状の目が切られていることを意味している。また、刃の形状が剥形になっている溝鉋、鋤鉋など、西洋建築のデイトールでみられる曲線を削り出す鉋が多数ある。



図4 「リ236 鉋鉋」

## (三) 木匠器具標本

「ヌ」印「木匠器具道具」と分類され、明治三二年四月一日付で一〇九件登録されている。日本の木匠器具と推定され、先の西洋木匠器具同様、鋸、錐、鉋、鑿、鉋と多種にわたるが、点数は約1/3と少ない。

## (四) 彫刻器具標本

「タ」印「彫刻器具標本」と分類され、明治三二年四月一日付で四〇件登録される。木彫用、石彫用、石膏用など用途も異なり、さらに国産、輸入品が混在する。『博物場目録』には同じ項目名は存在しないが、内容、項目の並び順から、同様の標本群であると考えられる。ここに挙げられている品目の数点の実物が確認され、そのうち「タ4 舶来鉄槌」「タ8 舶来円規」には「工学寮」の焼印が確認された。そもそも工学寮の名称が使用されていたのは、明治一〇年一月一日、官制改革による寮の廃止までであり、少なくともこ



図5-1 「タ4 舶来鉄槌」



図5-2 「工学寮」焼印 (部分拡大)

の二点はこれ以前に納入されたものといえる。この場合、工学寮（工部大学校）の備品、もしくは明治九年一月に設置された工学寮美術校（工部美術学校）の備品である可能性が考えられる。工部美術学校では拙稿で述べたとおり明治九年一月二七日には彫刻用粘土をイタリヤより購入しており<sup>三〇</sup>、彫刻道具を購入した記録はないが、事実図書の場合は「工学寮美術校」の蔵書印がすでに確認されていることから、明治九年時点で登録をされていたのであれば、「工学寮」の焼印が押されていても何ら不思議はない。また、「夕」印には木製人形、写生用人形など、工部大学校の教育課程では用いられていない品目が含まれている。このことから、推測の域を出ないがこの「彫刻器具標本」には、工部美術学校の旧備品が含まれている可能性が高いといえるであろう。

ここで個別に説明を行わなかった項目も、すべて明治二二年四月一日付で登録をされており、その後の追加登録も一切みられないことから、旧工部大学校・工部美術学校備品の引継品と考えることができる<sup>三一</sup>。

## 五 その他の工部大学校標本

最後に、現存が確認されているこの他の工部大学校標本を紹介したい。総合研究博物館には「明治九丙子十月工学寮測器所製造」と刻銘された水準器、「明治九年二月大日本工部省工学寮工作所製造」の刻銘された定規類がある。他にも、『東京大学百年史』部局史三の巻頭には、それぞれ「明治八年九月、大日本工部省、工学寮、工

作所製造」明治九年丙子四月 大日本工学寮工作所製造」と刻銘された分度器の写真が掲載され、また国立科学博物館には「明治八年十二月 大日本工部省工学寮測器所製造」と刻印された分度器が展示されている。明治八年五月二一日より工作所では測量器械製造が始められ、工学三等中手藤島常興を主任として明治九年には測器、科学器理学器、雑品合計七二四八点を製造していることから<sup>三二</sup>、後者の定規類は、恐らくその一部であると思われる。また、平成二〇年に東京大学駒場博物館で開催された「測る人・画く人 明治以降の第一高等学校測量・図学教育」展覧会で、明治一九年工部大学校が文部省移管後、東京大学予備門を経て第一高等学校へ引き継がれた定規、明治二三年に帝国大学工科大学より移管された立体模型等が紹介された。いずれも工部大学校図学場の焼印があり、おそらくは博物館ではなく図学場で用いられていた教材であろう。

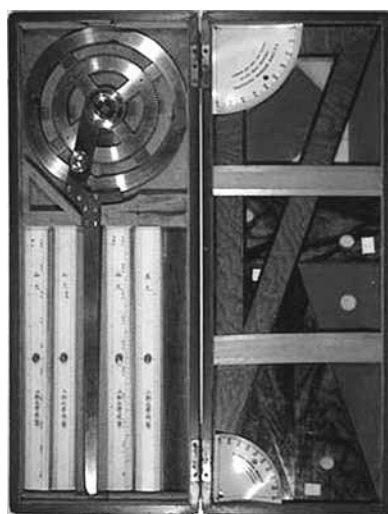


図6 「工学寮工作所製造」  
刻銘入り定規類

大工道具の調査にあたり、工学系研究科建築学専攻藤井研究室および藤田研究室在籍院生、竹中大工道具館渡邊晶氏、文化財建造物保存技術協会（当時）窪寺茂氏の協力を賜りました。記して感謝いたします。

- 一 拙稿「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（一）旧工部美術学校資料」『東京大学史紀要』第二八号、平成二二年、「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（二）旧工部美術学校資料」『東京大学史紀要』第二九号、平成二三年ともに東京大学史料室
- 二 大熊喜邦「明治建築史料」（其三）（其四）『建築世界』第一七卷第三・四号、大正二二年三・四月
- 三 塚本靖「明治初期に於ける我国の工業教育」『建築雑誌』五〇六、昭和三年二月
- 四 日本建築学会編『近代日本建築学発達史』昭和四七年、丸善
- 五 堀越三郎『明治初期の洋風建築』昭和四年、丸善（昭和四八年に南洋堂書店により復刻）、烏海基樹『我国戦前における近代建築保存概念の変遷に関する基礎的研究』平成六年東京大学大学院工学系研究科修士論文
- 六 工部大学の建築に関しては、『明治工業史 建築編』昭和二二年、日本工学会の他、『旧工部大学校史料・同付録』昭和五三年、青史社（昭和六年、虎之門会の復刻）などで簡単に紹介されている。このほかに、清水重敦「建築写真と明治の教育」『学問のアルケオロジー』（平成九年、東京大学総合研究博物館）で紹介されている

東京大学大学院工学系研究科所蔵「東京市内建物」写真、小林清親による錦絵「ためいけ」「虎ノ門夕景」など数点にとどまる。

七 詳細は拙稿「工部大学校建築の建設経緯」『技術報告』平成一九年、第二二回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会

八 明治六年八月二五日に起工し翌七年九月一〇日に竣工した。

九 大教師館（工期・明治五年四月～六年六月）、妻帯教師館（同七年一月～五月）、小教師館（同六年八月～十二月）、助手及模型師館（同六年八月～一〇月）が建設された。

一〇 本館中央部（講堂）は明治七年四月一日起工、明治一〇年六月二〇日に竣工、左翼部は九年九月一二日起工、翌一〇年九月二五日に竣工している。（『明治工業史 建築編』）

一一 滝沢正順「工部大学の書房と蔵書」『東京大学創立一二〇周年記念東京大学展 学問の過去・現在・未来 第一部学問のアルケオロジー』平成一七年、東京大学総合研究博物館

一二 池上重康『明治初期日本政府蒐集船載建築書の研究』平成二三年、北海道大学出版会

一三 前掲注一〇

一四 『IMPERIAL COLLEGE OF ENGINEERING,

TOKEI CALENDAR 1873』

TECHNICAL MUSEUM

Attached to each department of the College will be a hall, containing models of apparatus and works having special relation to that department. There the student will pass hours of leisure



or work, amid familiar illustrations, systematically developed and methodically arranged. He will thus obtain a more correct idea of the actual apparatus than he would do from drawings.

The development of the Museum must, of course, be gradual. The models made by the students in the workshop will serve as a basis for it, but additions will be made from other sources.

The contents of the various departments, briefly enumerated, are as follows.

Civil Engineering. All the different kinds of apparatus and works described in the lectures on that subject (see Prospectus), as well as models of celebrated works in modern engineering practice.

Mechanical Engineering. Model of machines and tools used in Mechanical Engineering and of the different varieties of steam engines.

Telegraphy. Models of all the different apparatus used in the construction and working of telegraphs.

Architecture. Models of the various methods employed in building construction; and examples of the different styles of architecture. Practical Chemistry. Examples of the various products of chemistry; models of chemical works; and details of the various processes.

Mining. Collection of geological specimens; models of different kinds of mines; and machinery used in mining.

Metallurgy. Collection of metals; models of the different processes of Metallurgy; machinery required.

一五 『旧工部大学校史料』

一六 『IMPERIAL COLLEGE OF ENGINEERING,

TOKEI CALENDAR 1876』なお「工部省考課状（明治八年自一月至六月）」によると、明治八年一月四日付月給一八円で工学寮に着任をしてゐる。

一七 『明治過去帳』昭和一〇年（昭和四六年新訂版）

一八 『野画法』小学之部』明治八年

一九 明治七年の御雇外国人の地質学者B. S. ライマンの調査の際、訳官兼補助手として名を連ね、『工部大学校学課並諸規則』（明治一一年）では金石学地質学及鉱山学助手を務めている。

二〇 通信省技師の後、三共商会の設立に関わる。

二一 前掲注一

二二 前掲注一四

二三 『工学寮学課並諸規則』明治七年二月改正

「博物局

第七十七条 寮中諸学局ニ於テ要用ナル諸器摸形ヲ法ニ従ヒ序ヲ正シテ整理シテ生徒ニ縦覧セシメ画図上ニ於テ知り易カラサルノ物ヲ指示シテ解得セシム

第七十八条 局中諸器物逐次増加スヘシト雖モ先ツ生徒機工場ニ於テ造為スル所ノ諸摸形ヲ以テ局務ノ基礎ヲ創シ又之ヲ他ニ求メ源々ニ集メテ以テ整頓スヘシ

## 第七十九条 略」

三四 旧工部大学校史料 (p.90)

「学校用品ノ購入

明治七年一月二十二日学校用諸図籍器械類ノ購入ヲ要シタルニ依リ、左記ダイエル計算書之通、工学助ハ大小亟及大輔ニ対シ英国ヨリノ購入方ニツキ評議ニ及ビタリ。

一、拾八磅六ペンス 校中文庫用書籍之費

一、八拾磅壹志六片 図学生徒用機具並紙等之費

一、四拾貳磅八志 英語学生徒用書籍之費

一、參拾參磅拾貳志 幾何学生徒用書籍之費

一、貳拾四磅五志八片 究理学生徒用書籍之費

一、參百五拾磅 理科学用器械費

一、百五拾磅 化学試験所用舎密藥品器械等之費

以上千八百七十四年中校中需要之品物ヲ供給スルノ諸費計算ニ候也

一、拾八磅 模型師用小道具之費

一、百五拾六磅 機械之費

一、三拾磅 鉄及鋼鉄之費

一、三拾磅 模型局用雜物之費

以上細工場需要物件計算總計九百參拾八磅七シルリング八ペンスニ候得共大略ハ九百四拾磅也

校長 ヘンリー・ダイエル」

三五 「工部省考課状 (明治八年自一月至六月)」

「一、本寮学校用書籍器具摸形代価三千弗分英国へ注文致シ度旨相

伺候処、四月十二日許可アリ因テ英国龍動マゼソン社へ注文ス。但本文全員定額内ノ積」

「工部省第一回年報 (自明治八年七月至同九年六月)」

「外国購買品

学校用書籍諸物品等外国ヨリ購買セシ者左ノ如シ

外国購買品表

以下略」

三六 『IMPERIAL COLLEGE OF ENGINEERING TOKEI.

GENERAL REPORT BY THE PRINCIPAL FOR THE PERIOD

1873-77』

Technical museum

In order to enable the Professors to illustrate, and the students to understand the applications of science to practice, I have endeavoured to form an extensive technical museum with sections for each branch of engineering, and I think you will agree that the collection already made is creditable, considering the difficulties we have had to overcome. A large proportion of the models has been made at the College, and the manner in which they are finished reflects great credit on the workmen. I have to record the valuable assistance I have received from Mr. George Cawley, in designing and superintending the making of a great many of the models, and also that of the various professors in the technical courses, who superintended those for their own

departments.

I would draw your special attention to the difference between the models made at the College and those imported from abroad: the former are designed to show correctly all details, and are specially adapted for teaching purposes, the latter are (with very few exceptions) nearly useless for teaching purposes, and sometimes so badly made, that I am almost ashamed to place them in the museum. In future I only propose to get such models or machines from abroad as would be difficult or expensive to make here.

I would also mention that we can generally make them for a mere fraction of the price at which we can import them, and this, I think, should be a sufficient reason for the government giving every assistance in forming a reference technical museum from which duplicates could be made by ordinary workman, as we give every facility for the models being copied.

With this report I send a preliminary catalogue of the Museum, but this must be looked upon as a mere temporary edition, the rapid extensions preventing anything like systematic order being carried out. Mr. Naito, keeper of the museum, deserves praise for the good order maintained in the museum, and for his general attention to business.

I consider the technical museum of the highest importance to the College; and of the utmost necessity in such a country as

Japan where the actual machines and structures are scarce.

“The material elements of education enormously accelerate the progress of the pupil. The two words “look there,” are often more valuable than an hour’s lecture. The pupil takes into his mind the form, colour, meaning, oh the thing itself, which no words could give him; and in good collections of this sort, the inside of things are shown him as clearly as the outside; so that the pupil’s knowledge is thorough instead of merely skin deep. It should also be remembered that education by the eye is as fertile in fruit as education by the ear; and that merely to familiarize men with the sight of things made as they should be, is the most effectual teaching to avoid and dislike what is inferior or wrong. The material element of teaching is therefore secondary only in value to the living element.”

二七 国立国会図書館所蔵

二八 東京大学総合図書館所蔵

二九 東京大学総合図書館所蔵

三〇 公文類聚・第二八編・明治三十七年「東京帝国大学工科大学造兵造船及土木工学教室火災復旧費ヲ第二予備費ヨリ支出ス」

三一 前掲注一

三二 前掲注一

三三 「工部省第一回年報（自明治八年七月至同九年六月）」

（つのだ まゆみ 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻）

表1 チ印 石工器具標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		チ1	曲尺	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		チ2	墨壺	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		チ3	墨サシ	1	0.010		⊙
明治22年4月1日		チ4	長鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		チ5	鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		チ6	鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		チ7	ツルゲンノウ	1	0.750	37/6/10 明治37年6月3日造船学教室焼失の際、焼失	⊙ 一重線
明治22年4月1日		チ8	大ゲンノウ	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		チ9	ハヅリゲンノウ	1	0.600	37/6/10 明治37年6月3日造船学教室焼失の際、焼失	⊙ 一重線
明治22年4月1日		チ10	両刃タタキ	1	0.600	37/6/10 明治37年6月3日造船学教室焼失の際、焼失	⊙ 一重線
明治22年4月1日		チ11	両刃タタキ	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		チ12	ビシャメン	1	0.750		⊙
明治22年4月1日		チ13	手槌	1	0.500		⊙
明治22年4月1日		チ14	叩キ	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		チ15	叩キ	1	0.500		⊙
明治22年4月1日		チ16	叩キ	1	0.500	37/6/10 明治37年6月3日造船学教室焼失の際、焼失	⊙ 一重線
明治22年4月1日		チ17	鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		チ18	両刃鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		チ19	頭ハツリ	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		チ20	衝キ鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		チ21	石割矢	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		チ22	石割矢	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		チ23	石割矢	1	0.300		⊙
				23	10.360		
明治37年9月27日		チ24	ツルゲンノウ		3.000		⊙
明治37年9月27日		チ25	ツルゲンノウ		3.000		⊙
明治37年9月27日		チ26	両刃叩キ		3.000		⊙
明治37年9月27日		チ27	叩キ		3.000		⊙
				23	19.910		

記述がある欄のみ書き出した。  
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。

表2 リ印 西洋木匠器具標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		リ1	大鋸	1	12.000		⊙
明治22年4月1日		リ2	手挽鋸	1	7.500		⊙
明治22年4月1日		リ3	手挽鋸	1	7.500		⊙
明治22年4月1日		リ4	手挽鋸	1	7.500		⊙
明治22年4月1日		リ5	鋸	1	4.000		⊙
明治22年4月1日		リ6	鋸	1	3.000		⊙
明治22年4月1日		リ7	目振り	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ8	目振り	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ9	鋸框共	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		リ10	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ11	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ12	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ13	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ14	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ15	框鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ16	弦鋸	1	4.000		⊙
明治22年4月1日		リ17	バイドストック	1	4.000		⊙
明治22年4月1日		リ18	バイドストック	1	5.000		⊙
明治22年4月1日		リ19	バイドストック	1	5.000		⊙
明治22年4月1日		リ20	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ21	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ22	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ23	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ24	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ25	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ26	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ27	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ28	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ29	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ30	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ31	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ32	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ33	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ34	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ35	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ36	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ37	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ38	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ39	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ40	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ41	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ42	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ43	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ44	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ45	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ46	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ47	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ48	錐	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		リ49	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ50	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ51	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ52	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ53	錐	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ54	鉄製定規	1	3.500		⊙
明治22年4月1日		リ55	鉄製定規	1	3.000		⊙
明治22年4月1日		リ56	鉄製定規	1	3.000		⊙
明治22年4月1日		リ57	鉄製定規	1	3.000		⊙
明治22年4月1日		リ58	扭錐	1	0.075		⊙
明治22年4月1日		リ59	扭錐	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		リ60	扭錐	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		リ61	扭錐	1	1.500		⊙
明治22年4月1日		リ62	扭錐	1	1.500		⊙
明治22年4月1日		リ63	扭錐	1	2.000		⊙
明治22年4月1日		リ64	扭錐	1	2.300		⊙
明治22年4月1日		リ65	扭錐	1	1.500		⊙
明治22年4月1日		リ66	扭錐	1	0.750		⊙
明治22年4月1日		リ67	扭錐	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ68	扭錐	1	1.500		⊙
明治22年4月1日		リ69	扭錐	1	0.750		⊙
明治22年4月1日		リ70	扭錐	1	0.800		⊙

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治 22 年 4 月 1 日		リ 71	扭錐	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 72	木製溝型	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 73	木製溝型	1	0.150		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 74	木製溝型	1	0.150		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 75	木製溝型	1	0.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 76	木製溝型	1	0.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 77	木製溝型	1	0.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 78	木製溝型	1	0.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 79	二重鉋鉄	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 80	二重鉋鉄	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 81	二重鉋鉄	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 82	二重鉋鉄	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 83	切鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 84	切鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 85	切鉋鉄	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 86	切鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 87	通常鉋鉄	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 88	通常鉋鉄	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 89	通常鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 90	通常鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 91	通常鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 92	通常鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 93	通常鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 94	木製溝型	1	0.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 95	鉋鉄	1	0.120		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 96	鉋鉄	1	0.150		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 97	鉋鉄	1	0.150		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 98	鉋鉄	1	0.150		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 99	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 100	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 101	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 102	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 103	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 104	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 105	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 106	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 107	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 108	鉋鉄	1	0.250		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 109	釘裁り	1	0.800		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 110	釘抜き	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 111	鋸	1	2.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 112	鋸	1	1.800		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 113	斧	1	1.800		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 114	斧	1	1.800		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 115	木槌	1	0.160		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 116	鐵製雄螺旋	1	0.400		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 117	鐵製雄螺旋型	1	0.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 118	鐵製雄螺旋型	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 119	鑿工用鉋	1	1.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 120	鐵鎚	1	1.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 121	鉄鎚	1	1.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 122	扭廻	1	0.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 123	扭廻	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 124	扭廻	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 125	扭廻	1	1.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 126	線切	1	0.750		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 127	ヤットコ	1	0.750		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 128	鐵製円規	1	1.500		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 129	鐵製円規	1	1.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 130	鐵製円規	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 131	鐵製円規	1	0.800		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 132	鐵製円規	1	0.750		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 133	円規	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 134	円規	1	0.750		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 135	ビーム円規	1	1.200		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 136	銑	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 137	銑	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 138	銑	1	1.000		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 139	板割	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 140	筋附ケ	1	0.350		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 141	筋附ケ	1	0.300		⊙
明治 22 年 4 月 1 日		リ 142	筋附ケ	1	0.180		⊙

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		リ143	木製雄蝶螺旋型	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ144	木製雄蝶螺旋型	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ145	筋附ケ	1	0.160		⊙
明治22年4月1日		リ146	筋附ケ	1	0.160		⊙
明治22年4月1日		リ147	筋附ケ	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		リ148	角鑿	1	0.800		⊙
明治22年4月1日		リ149	角鑿	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		リ150	角鑿	1	0.700		⊙
明治22年4月1日		リ151	角鑿	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ152	手鑿	1	0.800		⊙
明治22年4月1日		リ153	手鑿	1	0.700		⊙
明治22年4月1日		リ154	手鑿	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ155	通常鑿	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ156	通常鑿	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		リ157	通常鑿	1	0.500		⊙
明治22年4月1日		リ158	通常鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ159	丸鑿	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ160	丸鑿	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		リ161	鑿	1	0.450		⊙
明治22年4月1日		リ162	鑿	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		リ163	鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ164	鑿	1	0.330		⊙
明治22年4月1日		リ165	鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ166	鑿	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ167	丸鑿	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		リ168	丸鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ169	丸鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		リ170	丸鑿	1	0.280		⊙
明治22年4月1日		リ171	丸鑿	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ172	通常丸鑿	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		リ173	通常丸鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ174	通常丸鑿	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ175	通常丸鑿	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		リ176	シメ金	1	9.000		⊙
明治22年4月1日		リ177	シメ金	1	6.000		⊙
明治22年4月1日		リ178	シメ金	1	6.000		⊙
明治22年4月1日		リ179	傾刃鉋	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ180	傾刃鉋	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ181	傾刃鉋	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ182	傾刃鉋	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		リ183	溝鉋	1	0.335		⊙
明治22年4月1日		リ184	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ185	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ186	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ187	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ188	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ189	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ190	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ191	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ192	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ193	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ194	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ195	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ196	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ197	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ198	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ199	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ200	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ201	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ202	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ203	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ204	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ205	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ206	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ207	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ208	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ209	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ210	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ211	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ212	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ213	溝鉋	1	0.315		⊙
明治22年4月1日		リ214	溝鉋	1	0.315		⊙

年月日	納人	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治 22年 4月 1日		リ 215	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 216	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 217	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 218	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 219	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 220	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 221	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 222	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 223	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 224	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 225	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 226	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 227	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 228	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 229	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 230	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 231	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 232	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 233	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 234	溝鉋	1	0.315		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 235	鋤鉋	1	0.750		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 236	鋤鉋	1	1.000		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 237	鋤鉋	1	1.300		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 238	鉋	1	0.750		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 239	鉋	1	0.750		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 240	鉋	1	0.750		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 241	丸鉋	1	0.800		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 242	鉋	1	0.800		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 243	鉋	1	0.800		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 244	鉋	1	0.800		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 245	鉋	1	0.800		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 246	水平器	1	2.500		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 247	シメ木	1	3.500		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 248	シメ木	1	2.000		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 249	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 250	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 251	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 252	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 253	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 254	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 255	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 256	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 257	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 258	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 259	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 260	扭廻	1	0.120		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 261	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 262	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 263	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 264	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 265	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 266	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 267	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 268	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 269	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 270	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 271	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 272	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 273	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 274	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 275	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 276	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 277	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 278	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 279	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 280	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 281	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 282	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 283	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 284	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 285	扭廻	1	0.070		㊟
明治 22年 4月 1日		リ 286	扭廻	1	0.070		㊟



年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		リ287	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ288	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ289	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ290	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ291	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ292	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ293	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ294	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ295	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ296	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ297	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ298	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ299	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ300	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ301	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ302	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ303	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ304	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ305	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ306	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ307	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ308	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ309	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ310	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ311	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ312	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ313	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ314	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ315	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ316	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ317	扭廻	1	0.070		㊟
明治22年4月1日		リ318	扭錐	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		リ319	扭錐	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		リ320	扭錐	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		リ321	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ322	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ323	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ324	扭錐	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		リ325	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ326	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ327	扭錐	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		リ328	扭錐	1	0.250		㊟
				328	218.475		

記述がある欄のみ書き出した。  
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。

表3 ヌ印 木匠器具標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		ヌ1	尺三寸横引鋸	1	2.000		⊙
明治22年4月1日		ヌ2	尺二寸竖引鋸	1	1.500		⊙
明治22年4月1日		ヌ3	蟻引鋸	1	0.500		⊙
明治22年4月1日		ヌ4	八寸竖引鋸	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		ヌ5	弦掛鋸	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ6	引廻シ鋸	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		ヌ7	鴨居引鋸	1	0.600		⊙
明治22年4月1日		ヌ8	縄墨	1	1.000		⊙
明治22年4月1日		ヌ9	朱壺	1	0.350		⊙
明治22年4月1日		ヌ10	墨芯	1	0.050		⊙
明治22年4月1日		ヌ11	鋸	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ12	木植	1	0.100		⊙
明治22年4月1日		ヌ13	手鋸	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ14	ゲンノウ	1	0.130		⊙
明治22年4月1日		ヌ15	鐵鎚小	1	0.050		⊙
明治22年4月1日		ヌ16	鐵鎚中	1	0.070		⊙
明治22年4月1日		ヌ17	鉄鎚	1	0.070		⊙
明治22年4月1日		ヌ18	鉄鎚大	1	0.100		⊙
明治22年4月1日		ヌ19	五寸小刀磨キ	1	0.400		⊙
明治22年4月1日		ヌ20	四寸細小刀	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ21	大刀鉋	1	0.160		⊙
明治22年4月1日		ヌ22	小刀鉋	1	0.120		⊙
明治22年4月1日		ヌ23	鉋挟ミ	1	0.120		⊙
明治22年4月1日		ヌ24	鋸目振り	1	0.100		⊙
明治22年4月1日		ヌ25	削り止メ	1	0.010		⊙
明治22年4月1日		ヌ26	釘メ大	1	0.060		⊙
明治22年4月1日		ヌ27	釘メ中	1	0.040		⊙
明治22年4月1日		ヌ28	手斤小	1	0.100		⊙
明治22年4月1日		ヌ29	真鍮尺五寸規	1	0.750		⊙
明治22年4月1日		ヌ30	真鍮円規	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ31	鐵図引筆	1	0.100		⊙
明治22年4月1日		ヌ32	真鍮添行	1	0.120		⊙
明治22年4月1日		ヌ33	板割	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ34	打ち込ミ	1	0.120		⊙
明治22年4月1日		ヌ35	七分裏丸鑿	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ36	八分シャクリ鑿	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ37	六分シャクリ鑿	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		ヌ38	六分裏丸鑿	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ39	三分裏丸鑿	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ40	一寸六分裏丸鑿	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ41	一寸四分鉋	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ42	一寸四分外丸鉋	1	0.280		⊙
明治22年4月1日		ヌ43	一寸六分鉋	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ44	一寸四分裏丸鉋	1	0.300		⊙
明治22年4月1日		ヌ45	一寸二分裏丸鉋	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ46	一寸二分鉋	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ47	一寸四分鉋	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ48	一寸裏丸鉋	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ49	八分裏丸鉋	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		ヌ50	八分際鉋右	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ51	一寸八分薄刃鉋	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ52	八分際鉋左	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ53	一寸鉋	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		ヌ54	箸鉋	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ55	筋違ヒ溝鉋	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ56	埋溝鉋	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ57	溝服鉋	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ58	八分溝鉋	1	0.550		⊙
明治22年4月1日		ヌ59	溝鉋右	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ60	一寸五分鉋	1	0.250		⊙
明治22年4月1日		ヌ61	二分カマチ鑿	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ62	二分半カマチ鑿	1	0.160		⊙
明治22年4月1日		ヌ63	四分裏丸鑿	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ64	三分奴鑿	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ65	三分シャクリ鑿	1	0.150		⊙
明治22年4月1日		ヌ66	四分奴鑿	1	0.160		⊙
明治22年4月1日		ヌ67	四分内細鑿	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		ヌ68	三分カマチ鑿	1	0.180		⊙
明治22年4月1日		ヌ69	六分甲打奴鑿	1	0.200		⊙
明治22年4月1日		ヌ70	五分奴鑿	1	0.200		⊙

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		ヌ71	七分角打奴鑿	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		ヌ72	軸長六寸鑿	1	0.750		㊟
明治22年4月1日		ヌ73	軸長六寸四分鑿	1	0.600		㊟
明治22年4月1日		ヌ74	軸長六寸二分鑿	1	0.600		㊟
明治22年4月1日		ヌ75	八分小口切鑿	1	0.450		㊟
明治22年4月1日		ヌ76	柄長六寸薄鑿	1	0.200		㊟
明治22年4月1日		ヌ77	穂長五分鑿	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		ヌ78	六分厚切鑿	1	0.400		㊟
明治22年4月1日		ヌ79	八分厚切鑿	1	0.400		㊟
明治22年4月1日		ヌ80	五分切鑿	1	0.400		㊟
明治22年4月1日		ヌ81	八分奴鑿	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		ヌ82	四分切鑿	1	0.350		㊟
明治22年4月1日		ヌ83	軸長四方中薄鑿	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		ヌ84	五分丸鑿	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		ヌ85	六分罅鑿	1	0.150		㊟
明治22年4月1日		ヌ86	コテ鑿	1	0.200		㊟
明治22年4月1日		ヌ87	三ッ目穂長錐	1	0.040		㊟
明治22年4月1日		ヌ88	輻輳錐	1	0.280		㊟
明治22年4月1日		ヌ89	大三方錐	1	0.030		㊟
明治22年4月1日		ヌ90	大四方錐	1	0.025		㊟
明治22年4月1日		ヌ91	杓子錐	1	0.040		㊟
明治22年4月1日		ヌ92	鋸刀錐	1	0.020		㊟
明治22年4月1日		ヌ93	小四方錐	1	0.015		㊟
明治22年4月1日		ヌ94	木口大穴錐	1	0.050		㊟
明治22年4月1日		ヌ95	三方鼠齒錐	1	0.050		㊟
明治22年4月1日		ヌ96	三方鼠齒錐	1	0.030		㊟
明治22年4月1日		ヌ97	鋸刀錐中	1	0.030		㊟
明治22年4月1日		ヌ98	鋸刀錐小	1	0.015		㊟
明治22年4月1日		ヌ99	小三ッ目錐	1	0.020		㊟
明治22年4月1日		ヌ100	小四方錐	1	0.015		㊟
明治22年4月1日		ヌ101	二分鼠齒錐	1	0.025		㊟
明治22年4月1日		ヌ102	二分鼠齒錐	1	0.025		㊟
明治22年4月1日		ヌ103	寸二分穴錐	1	0.150		㊟
明治22年4月1日		ヌ104	薄板割	1	0.600		㊟
明治22年4月1日		ヌ105	鐵砥	1	0.150		㊟
明治22年4月1日		ヌ106	合セ砥	1	0.300		㊟
明治22年4月1日		ヌ107	青砥	1	0.250		㊟
明治22年4月1日		ヌ108	伊予砥	1	0.200		㊟
明治22年4月1日		ヌ109	丹波砥	1	0.200		㊟
				109	27.980		

記述がある欄のみ書き出した。  
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。

表4 タ印 彫刻器具標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治22年4月1日		タ1	水平器	1	3.000		⊕
明治22年4月1日		タ2	木細工用鑿	1	0.200		⊕
明治22年4月1日		タ3	石用鉄鎚	2	0.340		⊕
明治22年4月1日		タ4	舶来鉄鎚	1	1.000		⊕
明治22年4月1日		タ5	大理石用鉄鎚	4	4.646		⊕
明治22年4月1日		タ6	石膏破碎用鎚	2	0.300		⊕
明治22年4月1日		タ7	和製大理石用鎚	4	2.000		⊕
明治22年4月1日		タ8	舶来円規	1	1.000		⊕
明治22年4月1日		タ9	ヤットコ	3	1.800		⊕
明治22年4月1日		タ10	鐵篋	3	0.283		⊕
明治22年4月1日		タ11	和製小型円規	6	2.100		⊕
明治22年4月1日		タ12	土摺大	1	0.300		⊕
明治22年4月1日		タ13	土摺中	1	0.200		⊕
明治22年4月1日		タ14	土摺小	1	0.150		⊕
明治22年4月1日		タ15	舶来鋸	1	1.500		⊕
明治22年4月1日		タ16	大理石用舶来鑿	2	0.500		⊕
明治22年4月1日		タ17	木細工用鉦	1	0.600		⊕
明治22年4月1日		タ18	舶来大理石用鉦	1	0.750		⊕
明治22年4月1日		タ19	舶来大理石用鉦	1	0.500		⊕
明治22年4月1日		タ20	舶来大理石用鉦	1	0.300		⊕
明治22年4月1日		タ21	大理石用和製丸形鑿	1	0.400		⊕
明治22年4月1日		タ22	舶来鉄製真鍮付大型円規	1	2.500		⊕
明治22年4月1日		タ23	舶来円規	1	0.800		⊕
明治22年4月1日		タ24	舶来円規	1	1.200		⊕
明治22年4月1日		タ25	舶来円規	1	1.200		⊕
明治22年4月1日		タ26	舶来円規	1	0.700		⊕
明治22年4月1日		タ27	舶来屈曲円規	1	3.000		⊕
明治22年4月1日		タ28	和製大形円規	1	1.600		⊕
明治22年4月1日		タ29	和製小形円規	1	0.600		⊕
明治22年4月1日		タ30	舶来石膏破碎用槌	1	0.300		⊕
明治22年4月1日		タ31	ビヨロン錐柄共	24	8.578	9.293を修正	⊕
明治22年4月1日		タ32	舶来轆轤	1	4.840		⊕
明治22年4月1日		タ33	鋸目ノ鑿	1	0.400		⊕
明治22年4月1日		タ34	和製石膏破碎用鑿	2	0.300		⊕
明治22年4月1日		タ35	ビヨロン捻廻し	1	0.250		⊕
明治22年4月1日		タ36	石挽鋸	1	3.000		二重線
明治22年4月1日		タ37	プリミ氏幾何立体図	1	3.872		⊕
明治22年4月1日		タ38	木製人形小	1	26.440		⊕
明治22年4月1日		タ39	写生用人形大	1	51.000	45.3.7 農科大学へ	一重線
明治22年4月1日		タ40	木製幾何立体	1	見積		⊕
				82	135.164		
			改計	81	84.164		

記述がある欄のみ書き出した。  
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。